

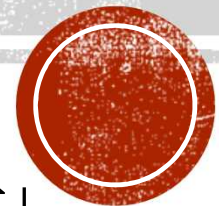
コメント1

外国経済史の立場から

政治経済学・経済史学会2020年度秋季学術大会共通論題
「自由化」時代の地域経済社会の担い手と対応

2020年10月25日(日)

小野塚 知 二



I 共通論題が論じている時代

S.ベッカーに批判された古い[労働]運動史の観点から：人の自覚的關係

1. 社会主義が夢であり理想でありえた時代：18世紀末～1917

労働側の国際カルテルなど、国家や資本が及ばなかった「攻勢」の構想

2. 社会主義が現実となった(反面教師ともなった)時代：1918-1991

ヴェルサイユ講和条約とILOによる反革命・予防革命、ニューディール、人民戦線、ケインジアン、ユーロコミュニズム、社会民主主義やネオコーポラティズムというさまざまな代替案

3. 社会主義が夢・理想としても存在しなくなった時代：1990年代～現在

低賃金・未組織労働者を求める資本のグローバル展開＋それに対応できない労組よりましな(害悪の少ない)資本主義と民主主義を模索するほかない

4. いま、まさにこの現在：3.すら模索しがたい時代

⇒今回の共通論題は第3.期、およびそれへの移行過程を論じている。

II 資本主義・自己責任論への対応方法

A 資本主義・自己責任論の外側に出る方法：近世からさまざまな試み

共産主義(復古思想)

社会主義(associationによる効率性と社会性の両立)

=「永遠の希望」と「永遠の絶望」(小野塚[2018b])

B 資本主義・自己責任論の世界の中で生きる(or “cohabitation”の)ための方法：

労働組合、[生産]協同組合、農協・漁協、消費協同組合、消費者運動(物価、食の安全、――→現代的Fair Trade)

C ネオ・リベラリズムに圧迫されながらかろうじて生き延びる方法：

A.とB.の諸形態のゲリラ化(たとえば「勝手連」)≡餓死・窮乏寸前の闘争

⇔困窮層の「自由労働」・「自己選択・自己責任」・「生活保護バッシング」

D 「新しい社会運動」(A.Melucci)：それはいかなる意味で社会運動か？

精神病院の開放、スローフード、スローシティ、社会的協同組合

Ⅲ 対応方法が地域に跼蹐する過程と理由

(1) 欲望・意思=資本主義と自己責任論の原動力

その背後に「強く、逞しく、失敗から立ち直る人」という人間観

(2) 1.の時代の諸運動は理性・知性と情緒の両面を原動力とする

情緒(被害者意識と猜疑心)を巧みに動員したナショナリズムに敗北

⇒第一次世界大戦=1.の時代の破壊的な終焉

(3) 2.の時代の諸運動は意図的に情緒の領域に踏み込まない。しかし、あ

る種の介入的自由主義の主知主義的性格。弱者のナショナリズムへの傾斜

(4) 3.の時代のゲリラ的運動は継続的に支える原動力を欠く：本来的困難

「戦闘性(militancy)」から「準戦闘性(para-militancy)」へ、さらに、何へ？

⇒その後の運動の可能性と展望はどこにあるか？

IV 反転攻勢の可能性と危険性

(1) 地域に追い詰められ、躑躅していった末に、「延安への大長征」という
選択肢は残されているか？

⇒ 第二のグローバル化と情報化の中で「辺境」は残されているか？

(2) スコットの「アナーキズム」や「モラル・エコノミー」による体制への
嫌がらせ・反抗：このゲリラ戦法は一つの可能性、しかし、根本的な解
決策たりえない。

(3) 「自由=善」「保護・競争制限=悪」という発想の相対化 ⇔ 観察しうる事実

(4) 「礼・儀」などの美的価値や格好良さに依拠する情緒的なゲリラ戦法と
その拡張による、包囲網の構築(21世紀のディエンビエンフー)

(5) (2)(3)いずれにも、「隠れファシズム」による同調圧力・自粛圧力・「社会
による陰湿な専制」・「誘導された自発性」などの危険性と隣り合わせ

⇒ 隘路を切り拓く叡智：地球とヒト自体が「惑星社会」の内部に追い詰め
られているという認識から何が出てくるのか？ 既存運動との接合

関連する仕事

梅津順一・小野塚知二編著『大塚久雄から資本主義と共同体を考える ―コモンウィール・結社・ネーション―』日本経済評論社、2018年。

ONOZUKA, Tomoji, "[The First and the Second Global Economy: A comparison of the international labor movements in the two periods of globalisation](#)", Year-end Annual Conference of the Korean Economic History Society, 8th December 2018, Chung-Ang University, Seoul, Republic of Korea.

小野塚知二「[第一次世界大戦前の炭坑夫の国際労働運動 ―労働基準・移民規制・労組間連帯に注目して―](#)」政治経済学・経済史学会2018年秋季学術大会自由論題報告、2018年10月20日、一橋大学。

小野塚知二「[第一のグローバル経済における国際労働運動の諸機能](#)」社会政策学会第137回(2018年秋季)大会自由論題報告、2018年9月15日、北海学園大学。

小野塚知二『経済史：いまを知り、未来を生きるために』有斐閣、2018年。

小野塚知二「[雇用形態の多様化と労働組合](#)」協同組合総合研究所研究報告書第28集『21世紀の生協労働運動 ―かながわをケーススタディとして―』、2001年9月、pp.15-55.

小野塚知二「[生協は特殊か？ ―生協労働・労使関係・労働組合をめぐる議論に即して―](#)」生協労連21世紀委員会『21世紀への飛翔[「生協労働と労働組合運動の現状および課題」に関する報告集]』、2000年9月、pp.90-98.